

Ⅲ 道路改良事業：一般県道津之郷山守線（福山西環状線）

（１）事業概要

- ① 事業箇所 福山市瀬戸町～福山市駅家町
- ② 規模等 道路延長： 8,900m 車道幅員： 14.0m（全幅員：20.5m）
- ③ 全体事業費 47,700 百万円（暫定 2 車線）（前回の再評価時は 44,000 百万円）
- ④ 工期 平成 11 年度～令和 19 年度（前回の再評価時は平成 11 年度～令和 9 年度）

（２）再評価の事由

前回の再評価後 5 年が経過した時点で継続中の事業であるため

（３）審議内容

① 事業の内容と必要性

福山都市圏の既存幹線道路では、依然として朝夕の通勤・通学時間帯を中心に厳しい交通渋滞が見られ、市民生活や社会・経済活動への支障等が同都市圏の大きな課題となっている。

本事業は、これらの課題を少しでも解消するために計画された事業で、一般国道 182 号、一般国道 486 号と合わせて、福山都市圏の外郭環状軸を形成する主要幹線で地域の自立的発展や地域間の連携を支える地域高規格道路「福山環状道路」の一部を成すものである。

当該道路の整備によって一般国道 2 号と一般国道 486 号とが南北方向に繋がり、福山市内の交通混雑の緩和のみならず、府中市を中心とする内陸部地域との連絡強化も期待できる。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査によれば、福山市の人口は、平成 27 年度は 464,811 人に対し、令和 2 年度は 460,930 人と減少している。一方、近隣の交通量は、道路交通センサスによれば、一般国道 313 号では、平成 27 年度が 21,674 台／日、令和 3 年度が 17,808 台／日と減少しているものの、一般県道川南近田線では、平成 27 年度が 13,663 台／日、令和 3 年度が 14,118 台／日と増加しており、いずれも事業の必要性を見直さなければならないような大きな変化はない。

③ 進捗状況と今後の見通し

事業の完了年度は、用地交渉の難航により前回の評価時の令和 9 年度から令和 19 年度に延長されている。

今後は、県道柞磨駅家線から北側の国道 486 号までの区間及び県道柞磨駅家線から南側の芦品広域農道までの側道部分の用地買収及び工事を推進し、早期事業効果の発現に努められるとともに、その他の区間は地元調整を進め、早期に工事着手できるよう事業進捗が図られるものと考えられる。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費は、477 億円と 37 億円増加している。費用便益比 B／C については、「費用便益分析マニュアル（令和 5 年 12 月 国土交通省 道路局 都市局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の 50 年間、社会的割引率を 4.0%とした結果、前回の 3.5（総便益（B）：1,347.0 億円、総費用（C）：386.0 億円）から 2.7（総便益（B）：1,140.5 億円、総費用（C）：421.4 億円）と減少している。

⑤ その他特筆すべき事項

市町村合併を支援する合併支援道路に位置付けられている。

（４）結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

今後は、住民の理解を得て速やかに用地買収を終わらせて工事を推進するとともに、構造物設計において、経済的な工法の採用によりコスト縮減に努め、計画どおりに本路線の供用を開始できるよう、関係各位には一層の努力をお願いする。